

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

- 巻頭言 P1
- ビジョン・アクションプランの一部改定について … P2
- 県立図書館トピックス P3
- 貴重書デジタルアーカイブのご紹介 P4
- 名誉館長より追悼メッセージ「大江健三郎氏の文学とその思い出」… P5
- 県立図書館からのお知らせ P6

※緑陰通信は県立図書館のホームページ (<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>) からご覧いただけます。

巻頭言 ● 宮崎県立図書館長より

「魅力的で頼りになる図書館をめざして」

宮崎県立図書館長 平山 文春



このたび、宮崎県立図書館の第56代館長に着任いたしました。当館は、1902（明治35）年5月に創立され、昨年5月に120周年を迎えました。現在の県立図書館は、置県100年記念事業の「宮崎県総合文化公園構想」に基づく施設として1988（昭和63）年5月に開館しました。今年5月に35周年を迎えたところであり、歴史と伝統ある当館の館長職を務めさせていただく重責に身の引き締まる思いがしております。

当館では、平成18年度に県立図書館のめざす姿を「人づくりと地域づくりに役立つ図書館」と定め、シンボルマークとして、黄色を背景に「LiveLibrary」の文字を掲げました。これらを踏まえ、今年2月に一部改定した「宮崎県立図書館ビジョン」では、基本目標を「人の暮らしを豊かにし、地域の課題解決に役立つ図書館」としました。また、基本目標を達成するための行動指針の一つとして、「みやざきの資料（地域資料）の拠点」をめざし、郷土に関する資料の収集と活用を図っており、県立図書館1階に郷土資料室を設置しています。

郷土について知ることは、人口減少・少子高齢化社会において、福祉の充実や産業振興、感染症対策や地球環境問題への対応など様々な課題への解決策を見出すのに役立つと考えています。また、郷土の先覚者の生き方や考え方について知ることは、青少年はもとより、現代を生きる我々にとって、これから先の人生を豊かに生きる上できっと参考になるはずです。

宮崎県総合文化公園内には、6人の郷土先覚者の銅像が建立してあります。本県は、今年5月に置県140周年を迎えましたが、本県再置の際の分県運動最大の功労者である川越進、苦学の徒として知られ、昌平坂学問所教授を務めた儒学者の安井息軒、脚気の治療法を探り当て、ビタミンの父と呼ばれる高木兼寛、列強各国と平等な通商条約の締結に尽力し、外交官として偉大な業績を残した小村寿太郎、生涯をかけて児童救済に尽力した児童福祉の父と呼ばれる石井十次、自然と旅を愛し、近代日本の短歌史上大きな足跡を残した旅情の歌人と呼ばれる若山牧水の6人の銅像です。

当館の伊藤一彦名誉館長は、若山牧水研究の第一人者で、短歌界で最も権威ある賞とされる^{ちようくうしょう} 遼空賞や現代短歌大賞、短歌研究賞など多数の賞を受賞され、令和4年秋の叙勲では、芸術文化功労で旭日小綬章を受章されています。是非、県立図書館を御利用の際には、郷土先覚者の銅像を巡って、その偉業に思いを馳せたり、自分でも短歌を詠んだりしながら、公園内を散策してみてください。

インターネットが普及し、AIの活用が進む中で、県立図書館には、これまで以上に人々が必要とする情報の収集、保存、提供、活用の効率化と市町村立図書館や学校・大学図書館などとのネットワーク化が求められてくると考えています。また、社会教育のための機関及び生涯学習のための施設として、各種講座や相談会等の開催、レファレンスサービスや学習支援機能の充実なども併せて図っていく必要があると考えています。

コロナ禍により3年間様々な制約がありましたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しました。県民の皆様がコロナ禍前と同等以上に県立図書館内の図書や視聴覚資料などを安全・安心な環境で常に快適に利用していただけるよう職員一丸となって努めてまいりますので、引き続き、積極的な御利用と御支援をよろしくお願いいたします。

県立図書館ビジョン・アクションプランの一部改定について

当館では、今後目指すべき姿や施策展開の方向性等を明確にするため、平成30年度から10年間の「県立図書館ビジョン」を策定し、県の中核図書館に求められる様々な取組を行っています。策定から5年が経過した現在、新型コロナウイルス感染症をはじめとする社会の大きな変化に伴って、図書館運営にも多くの課題が生じていることから、令和5年2月に内容を一部改定しました。

また、このビジョンをもとにした具体的取組についても見直し、令和5年度から3年間を計画期間とする新たなアクションプランを示しました。

〔新たな基本目標〕

「人の暮らしを豊かにし、地域の課題解決に役立つ図書館」

〔行動指針〕

- ① 図書館の図書館（全県ネットワーク）
- ② みやざきの資料（地域資料）の拠点
- ③ 調べたい、学びたいに資料・情報・知識で応える

今後の施策展開の方向性

① 図書館の図書館（全県ネットワーク）

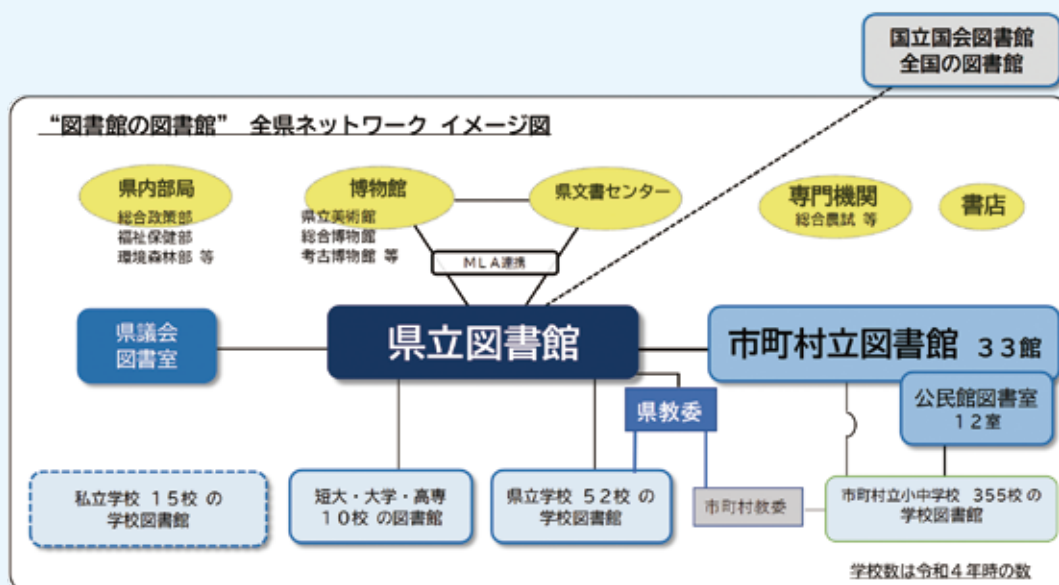
- ① 市町村立図書館（室）等の支援・協力
- ② 学校図書館の支援
- ③ 大学図書館への利用促進
- ④ 図書館活動・ネットワークを支える施設・システムの維持管理
- ⑤ 図書館の図書館としての情報発信

② みやざきの資料（地域資料）の拠点

- ① 地域資料の収集・保存・発信の全県的な促進
- ② 地域情報のデジタル化・データベース化

③ 調べたい、学びたいに資料・情報・知識で応える

- ① レファレンスサービスの充実
- ② 専門的な資料・情報の収集・整理・保存・提供
- ③ 生涯読書活動の推進
- ④ 他の専門機関との連携
- ⑤ 情報アクセス環境の整備
- ⑥ 政策立案の支援
- ⑦ 地域の実情に応じた課題解決型サービス
- ⑧ 専門的なサービスを支える人材の育成・確保
- ⑨ 新たな動向の把握及び事業の改善



※MLA連携…Museum(博物館)、Library(図書館)、Archive(文書館)といった施設間の枠組みを超え、相互に協力して文化資産の収集・保存や情報提供等を行うためのつながり

県立図書館 トピックス

■第63回こどもの読書週間

毎年4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」となっており、全国各地で読書に関する様々な催し物が行われています。県立図書館でも4月18日から5月7日まで、「いのちをみつめて～平和をつたえるこどもの本～」と題して、1階ギャラリーで平和に関する本の展示やブックトークなどを行いました。絵本には、平和の尊さや命の大切さなどのメッセージがたくさんつまっています。本を手にとった方々にもそれらを感じていただけたのではないかと思います。

ギャラリー展では、そのほかにも読み聞かせボランティア団体やかば先生文庫、布の絵本などの紹介も行いました。また、児童図書室で昨年度貸出しの多かった本20冊の中から、来館者に好きな本を投票していただきました。

4月22日の特別おはなし会Ⅰでは、宮崎公立大学外国語読み聞かせ部の皆さんに英語で絵本の読み聞かせをしていただきました。4月29日の特別おはなし会Ⅱでは、職員による朗読劇「ブレーメンの音楽隊」を実施しました。どちらも参加したお子さんたちがとてもいい反応をしてくださり、活気あるおはなし会となりました。

5月3日のワークショップでは、親子で牛乳パックを使ったしかけ絵本作りに挑戦しました。時間いっぱいかけて親子で真剣に絵筆をにぎる姿がとても印象的でした。

今後も県立図書館では、お子さんの楽しい読書活動を支援するため、様々な取組をしていきたいと考えています。



■子ども映写会を開催しました

例年、「こどもの読書週間」に合わせて、子どもたちの夢を育て、情操教育を支援するための映写会「子ども映写会」を実施しています。今年度は、5月7日（日）に「ブレーメンの音楽隊」と「勇気の花がひらくとき／やなせたかしとアンパンマンの物語」の2作品を上映しました。どちらも「生きていく上で大切なこと」について考えるきっかけとなる作品です。映写会当日は、35名の参加があり、親子で楽しそうに映画を鑑賞する姿などが見られました。参加者からは、「とても感動しました」や「人に優しくすることについて改めて考える機会になりました」などといった感想が寄せられました。

県立図書館では、「子ども映写会」のほかにも「図書館シアター」や「緑陰コンサート」など様々な視聴覚事業を計画しています。いずれも入場無料ですので、ぜひお気軽に御参加ください。

貴重書デジタルアーカイブのご紹介



当館のデジタルアーカイブは、当館所蔵の宮崎に関する貴重資料をデジタル化し、当館ホームページに掲載しています。

現在、当館の貴重書デジタルアーカイブで公開されているいくつかの資料は、旧型のシステムで運用されていたことにより、システム上で決められたページ数しか登録・公開できませんでした。しかし、現行のシステムには上限がないこと、利便性の向上などを考え、昨年度より資料の続きを追加する作業を行っております。また、この機会にサイズを縮小して登録していた画像を、デジタル化した時の高い解像度で再登録をしております。今回、デジタルアーカイブ内の資料一覧にあります『児玉日誌』において、その作業が完了いたしました。少しずつではありますが、皆様が快適に閲覧できるよう、このような追加作業をこれからも行ってまいります。引き続きよろしく申し上げます。

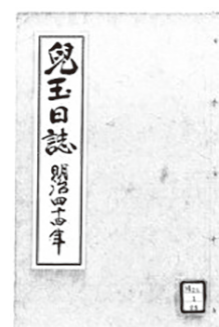
児玉日誌とは…

宮崎県出身の政治家であった児玉伊織による日々の業務及び生活について綴った手記で、1887（明治20）年から1936（昭和11）年までのおよそ50年にわたるものである。私的な内容も含まれるが、特に県会議員引退時の1931（昭和6）年以前の記録には、当時の議会進行や、内外の要人との交流等、県政にかかわる動向が記載されている。公人とはいえ一個人の目で見えた近代宮崎県政・議会記録であり、当時の状況を知る重要な資料の一つ。また、県政史のみならず、近代競馬史の研究資料としても注目されている。

児玉伊織 [1867～1936年]

佐土原藩住吉村（現宮崎市）の神職の家系に生まれ、県官吏や宮崎町長を歴任。その後、県農会書記長、県産牛馬組合副会長を務める。1911（明治44）年、宮崎県会議員に選出。1927（昭和2）年には県会議長も務めた。また、宮崎競馬倶楽部を設立し、1923（大正12）年には公認競馬場（現JRA宮崎育成牧場）を発足させた。1931（昭和6）年、県会議員を引退。1936（昭和11）年死去。享年70歳。

『宮崎県大観』より



「大江健三郎氏の 文学とその思い出」

宮崎県立図書館名誉館長 伊藤 一彦

日本の現代を代表する世界的な作家である大江健三郎氏が今年の三月三日に亡くなりました。ノーベル賞をはじめ多くの文学賞を受賞している大江氏の文学は、今日の私たちが今の社会のなかでどう生きてらよいかを根本から考えさせてくれました。もちろん、県立図書館に大江氏の本は多数収められており、あらためて大江氏を偲びながら手に取ってその深い問いにひたる時間を作りたいものです。

多くの雑誌が大江氏の追悼特集を組みました。当然と思います。「群像」「文學界」などの五月号がそうです。たくさんの作家たちが大江氏の文学の意義とまた人としての魅力を語っています。「群像」では、大江文学の最良の理解者である尾崎真理子氏の追悼文「全うされた小説家の人生」が出ています。尾崎氏は宮崎県出身の文芸評論家で、昨年十月には『大江健三郎の「義」』を出版され、この新刊にも触れながら、十月二十九日には県立図書館で貴重な講演を聞かせてもらったばかりです。尾崎氏は言います。この一〇〇年間で、価値が残る現代の作家と考えれば、鷗外や漱石のように親しまれていなくても、結局それは大江健三郎ではないかと。では、大江文学の価値とは。尾崎氏の『大江健三郎全小説解説』や、尾崎氏が聞き手の『大江健三郎 作者自身を語る』が深く教えてくれます。いずれも県立図書館で読めます。「文學界」の作家松浦寿輝氏の追悼文「誠実と猛烈」からも引いておきます。「あんなに『誠実』たらんと努める必要があったのか。あんなに『猛烈』に生き、かつ書く必要があったのか。もっと『おだやか』な、そしてもっと幸福な生涯をおくる途もありえたのではないか。しかし、もし仮にその『おだやか』を禁じたのが彼の『天才』そのものであったとするなら、わたしにはもう何も言うことはない」。深く噛みしめた松浦氏の言葉です。

大江氏の文学との私の出会いは大学に入ってからでした。高校時代までは近代文学をもっぱら読んでいた私が衝撃的に出会ったのが、戦後社会を背景に生々しい「実存」の生を描く大江作品でした。大江氏より私は八歳年下の「遅れてきた」一人ですが、同時代の文学者を見出した幸福を味わい続けてきました。

作品は読んでも、大江氏にお会いする機会があるとは夢にも思っていませんでした。ところが、大江氏に会うという僥倖を得たのです。私の第六歌集『海号の歌』が第四十七回読売文学賞を受けることになったとき、その選考委員の一人が大江氏で、親しくお話しできたのです。しかも、そのときの読売文学賞受賞作品の講評者は大江氏でした。ずっと尊敬してきた大江氏に自分の作品を批評してもらう喜びにふるえました。きちんと書かれた原稿を大江氏はゆっくりと読まれました。その長文の肉筆原稿のコピーを私は読売新聞社からいただきました。大江氏と一緒に写っている写真とともに私の宝物です。今後も大江氏の文学から学んでいくつもりです。

県立図書館からのお知らせ

今年は 宮崎県立図書館「新館」35周年



初代館
1902(明治35)年～



2代目館
1916(大正5)年～



3代目館
1961(昭和36)年～



新館
1988(昭和63)年～

1902(明治35)年5月、全国の都道府県で3番目に早く創立した宮崎県立図書館は、令和4年に創立120周年の節目を迎えました。その長い歴史の中で、時代の流れや取り巻く環境の変化に伴って様変わりし、増設や新築移転を経験してきました。

県総合文化公園(宮崎市船塚)内にある現在の建物は、1988(昭和63)年5月に落成した「新館」で、創立当時から数えて4代目です。それまで県庁南側(宮崎市橘通)にあった移転前の3代目館も、鉄筋コンクリート3階建ての現代的な建物でしたが、新館は宮崎県の置県100年記念事業に由来して「光と陰の織りなす綾」を建築テーマに取り入れた、特徴的な外観をもつ建物となりました。

以来、宮崎県立図書館は、この新館とともに35年にわたって図書館サービスを提供してきました。これからも引き続き新館を拠点に、県民の皆様の学びを支え、地域の課題解決に役立つ図書館としての役割を果たしてまいります。

特別整理期間のお知らせ

県立図書館では毎年、蔵書点検を行うために特別整理期間を定め、連続した休館日を設けています。今年度の特別整理期間は2回、9月と2月に以下の日程で行います。皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

期間

令和5年9月19日(火)～9月22日(金) 4日間
令和6年1月29日(月)～2月 9日(金) 12日間



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。
宮崎県



宮崎県立図書館公式SNS



Facebook



Instagram

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00

■児童図書室：9:00～17:00

休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合翌日)

年末年始：12/29～1/4

特別整理期間：9/19～9/22 1/29～2/9

編集・発行

●宮崎県立図書館

所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1

T E L ■0985-29-2911(総務・企画課)

F A X ■0985-29-2491(総務・企画課)

HPアドレス ■<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>



ホームページ